

社 團  
法 人

同 盟 通 信 社 の 機 構

組 織 と そ の 活 動

社  
團  
法  
人

同盟通信社の機構

組織とその活動

# 目次

同盟通信社の組織……………	三
同盟通信社の任務……………	八
同盟通信社の活動機關……………	一三
「ニュース」の蒐集、編輯並に頒布……………	一五
國際的「ニュース」聯絡……………	一九
同盟通信社の經濟通信……………	三三

## 同盟通信社の組織

社団法人同盟通信社は東京大阪を初め日本全国各地に亘る約二百の有力新聞社並に日本及び朝鮮の兩放送協會が共同で組織してゐる通信社で、昭和十年十一月七日成立し、同十一年一月一日新聞聯合社の事業一切を繼承して業務を開始し、更に六月一日日本電報通信社の通信部をも之に合體して今日に及んでゐるのである。

同盟通信社の第一の特徴は新聞社及び放送協會の協同機關であることにあり、苟くも我國の日刊新聞乃至無線電信・電話による放送事業を營む者である以上、何時たりとも一定

の條件の下に社員として加入し、その經營に參與し得るのである。併し、同時にこのことは以上の事業を營むものでなければ、假令如何に権力あり財力があつてもその社員となつて經營に参加容喙することが出来ないといふに他ならない。

同盟通信社の獨立自治性はその儘その組織の上に現れて居り、重要な事項は社員總會又は社員の中から選ばれた三十餘名の代表者によつて組織される理事會で決定し、日常の業務は理事會で選任された社長一名常務理事四名が處理することになつてゐる。此の社長及常務理事の五名は個々の新聞社又は放送協會と全然關係のないことを條件として居り、殊に政黨政派に屬したり、政治的社會的の實際運動に關係することを禁ぜられてゐるのであるが、之亦、同盟通信社の不偏性、獨立性を確保するの目的に出たに他ならない。

現在同盟通信社の社員として加入してゐる全国各地の日刊新聞社を地方別に分類して示

せば左の如くである。

地方	社數	地方	社數
樺太・北海道	一〇	中國	一五
奥羽	一七	四國	一一
關東	六	九州	二〇
東京	二二	臺灣	五
中部	三一	朝鮮	一八
近畿	一〇	放送協會	二
大阪	二四	計	一九一

右百八十九新聞社及び二放送協會の内、現在同盟通信社理事社としてその名を列してゐるものは左の如くである。(いろは順)

理事社

報知新聞社  
北海タイムス社  
北國新聞社  
東奧日報社  
東京日日新聞社  
東京朝日新聞社  
中外商業新報社  
中國新聞社  
小樽新聞社  
大阪每日新聞社

大阪朝日新聞社  
河北新報社  
讀賣新聞社  
臺灣日日新報社  
名古屋新聞社  
福岡日日新聞社  
神戶新聞社  
高知新聞社  
國民新聞社  
山陽新報社  
京都日日新聞社

九州日報社

新愛知新聞社

九州日日新聞社

日本放送協會

信濃毎日新聞社

監事社

時事新報社

都新聞社

更に又同盟通信社は社團法人の組織をとることによつて、その事業が根本に於いて國家國民の公益のために營まれるべきことを明かにしてゐる。同盟通信社が電信電話の使用に就いて政府から特に便宜特典を與へられてゐるのは、此の事業が公益増進を目的としてゐるからに他ならないが、殊に「ニュース」送受の爲めに放送無電使用の特典を與へられてゐることは、放送無電が「ニュース」の送受手段として經濟的且つ迅速であり、従つて急速に有線通信に代らんとしつゝある現狀に鑑み重大な意味を持つものである。



## 同盟通信社の任務

同盟通信社は正確公平な報道の普及と國際的諒解の増進とに資する爲め、内外の「ニュース」を蒐集編纂し、これを社員たる新聞社及び放送協會に通報し、且又海外の通信社及び新聞社に通報することを以てその事業の目的としてゐる。

日刊新聞社及び放送協會の協同機關たる同盟通信社の中心的任務は之等構成員の爲めに正確に遺漏なく、且つ迅速に、日々の「ニュース」を配給することにある。政府の發表、聲明の類、國際會議の經過、人事の移動、天變地異、スポーツの勝敗の如きは何れも歴た

る客觀的事實であつて、新聞社や放送局によつてその「ニュース」に相異のあるものではない。爲替、物價、株式、貿易の變動亦然りである。同盟通信社の第一の任務は之等の客觀的事實を報道することであり、之によつて各社の勞力の重複を救ひ、經濟的負擔を輕減するにある。事實今日同盟通信社は、内外の政界財界の動きは固より、日々の雑多な事件まで凡そありとあらゆる「ニュース」を刻々に各社員に通報し、朝夕の新聞紙やラデオニュースの骨組なり、土臺なりを提供してゐるので、報道界の擴充と強化とは同盟通信社の發展如何と重大關係にあるのである。

國際的に見た同盟通信社の任務は我國の「ニュース」を外國に對し正確且つ迅速に報道することにあり、此の分野に於いて同盟通信社は殆んど獨占的地位を與へられ、従つてそれだけ重大な責任を負ふてゐるのである。現在日本には海外の有力新聞社を代表する多

數の通信員が駐在してそれ／＼少からぬ電報を打つてゐるが、これ等の報道は飽く迄も補足的なもので、根幹をなすものは矢張り日本人自身による日本の報道でなければならぬ。かくしてこそ初めて世界に向つて日本を語り、その立場を闡明することが出来るのである。

東西兩半球に跨る世界五十餘ヶ國の出來事を九千萬の同胞に傳へ、國際情勢に就いての正しい認識と常識とを涵養することも亦同盟通信社の活動の重要な部分を占めてゐる。同盟通信社が英國の「ロイテル」、米國の「A・P」及び「U・P」、フランスの「アヴァス」をはじめドイツの「D・N・B」ソ聯邦の「タス」、その他世界通信聯盟下の三十數社と結び、事實上世界の隅々に至る迄「ニュース」蒐集の手を伸してゐるのは之あるが爲めである。

併し乍ら同盟通信社としては「ニュース」自主の原則を確立するといふ重大使命を負ふ

てゐるのであるから、苟くも我が國に利害關係ある事件に關しては、努めて日本人の眼を通して觀た情勢を報道する爲め、海外重要な地に支社・局を設け、通信員を置き、時には又特派員を派遣して独自の通信網を布いてゐるのである。

海外に於ける同盟通信社の支社、支局及び通信員の所在地を示せば左の如くである。

支社 上海

支局 新京、哈爾濱、奉天、大連、南京、漢口、北平、天津、青島、濟南、廣東、ロ

ンドン、パリ、ベルリン、モスクワ、ニューヨーク、ワシントン

通信員 滿洲里、海拉爾、齊々哈爾、龍井村、安東、山海關、吉林、芝罘、福州、香港、

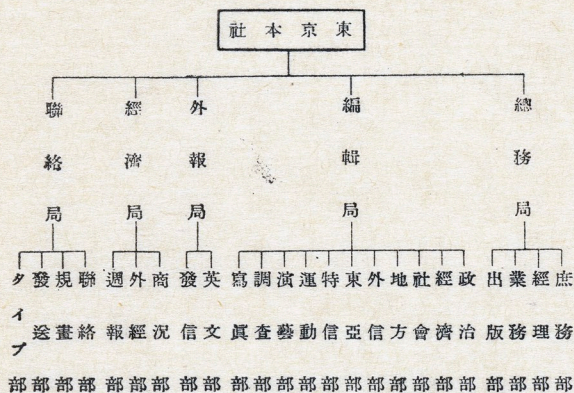
盤谷、シンガポール、バタヴィア、スラバヤ、マニラ、ダヴァオ、シドニー、

サンフランシスコ、ヴァンクーヴァー、ロサンジエルス、ホノルル、リオデジ

ヤネイロ

## 同盟通信社の活動機關

同盟通信社はその任務を遂行する爲め東京に本社を大阪、門司、名古屋、上海の各地に支社を置き、更に國內、國外の樞要の地に支局を設け、又その他の重要地點に通信員を置いてゐる。本社、支社・局を通じて同盟通信社の職員として日々の業務に従事してゐるものは十月末現在で社員約一千百名、社員外の職員約六百五十名であるが、之等千七百餘名の内約五百五十人が東京の本社に所屬してゐる。試みに東京本社の機構を圖で示せば左の如くである。



總務局は庶務經理など社の一般的事務をはじめ對外折衝、出版等の事務を司る。

編輯局は國內「ニュース」の蒐集及編輯に當る各部、即ち「政治」「經濟」「社會」「運動」「演藝」の五部と、滿洲國、支那各地からの「ニュース」を擔當する「東亞」、歐米その他海外各地からの「ニュース」を擔當する「外信」の二部とを中心置き、日々の「ニュース」を地方新聞社の爲めに再編輯する「地方部」を以て中央と地方とを結び、更に特別通信の編輯に當る「特信部」、内外通

信の基礎的諸調査に任ずる「調査部」、寫眞通信の蒐集頒布に當る「寫眞部」を以て報道陣の完璧を期してゐる。

外報局は第一には國內「ニュース」の對外報道に任ずるもので、海外に對する放送「ニュース」の編輯は固より、締盟外國通信社の東京駐在員との聯絡にも當つてゐる。右の目的に基く英文通信の編輯なども此の局の任務である。

經濟局は海外及國內の市況、相場並に之に關聯する情報の蒐集、編輯、報道、頒布に當るもので、週刊『國際經濟週報』の編輯も此の局の仕事に含まれてゐる。

聯絡局は「ニュース」の送受に關聯する一切の事務を司るもので、國內に於ける電話又は電信による「ニュース」の送受信、通信の印刷及配達等は何れも此の局の任務である。

## 「ニュース」の蒐集、編輯並に頒布

一つの「ニュース」が同盟に入つてから如何に編輯され、如何なる経路を辿つて國內、國外に流れて行くかを示す爲めに『同盟「ニュース」聯絡経路』の圖（十七頁）を挿入したが、之を實例で説明すると次の如くである。

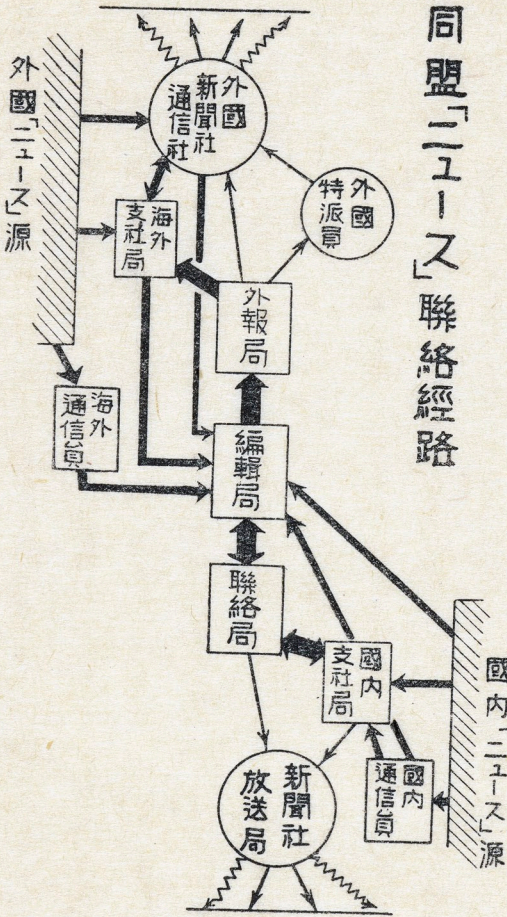
帝國議會で國務大臣が演説を行ひ、その演説が國內的にも國際的にも重大な意義を持つものであると假定する。演説の内容は議會に派遣されてゐる同盟の記者から直通電話で本社編輯局に通報され、編輯局では右の演説を直ちに整理して一つの「同盟ニュース」を作



り上げる。出来上つた通信は聯絡局の手で印刷され、各新聞社や放送局に配布されるが、特に急を要する場合は同報電話で各社に速報される。一方地方部では同時に此の「ニュース」を地方諸新聞の要求に応じて編輯し、同じく聯絡局に回附し、聯絡局は地方各支社・局を通じ、或は直接に、全國の新聞社に此の「ニュース」を速報する。(附圖『國內ニュース聯絡網』参照)。同じ「ニュース」は同時に外報局で同盟の對外「ニュース」として編輯され、對外放送電報に組込まれた上世界各國に報道される。一方英文部はこれを英譯して英字新聞並に外國通信員の用に供する。

併し國務大臣の演説のやうなものになると必ず之に對する海外での反響があり、之が一つの海外「ニュース」となつて日本へ歸つて來る。海外「ニュース」は海外に在る同盟の支社局を通じ、或は縮盟通信社の手から直接に編輯局宛に打電されるのであるが、一旦編

# 同盟「ニュース」聯絡經路



輯局に入つて編輯された海外「ニュース」は國內「ニュース」と同じ經路に従つて全國の

新聞社、放送局に送り込まれる。大臣の演説が夕刊に印刷され、翌朝の新聞に之に對する海外の反響が出るやうな場合、此の内外「ニュース」の交流は以上の経路に依つて行はれるのである。海外からの反響に對し當局が更めて批判を加へる例も少くない。此の場合、海外の反響に對する日本側の反響は、更めて一つの國內「ニュース」となつて同盟の「ニュース」流に乗つて、外國からの反響のあとを追つて流れて行く。問題の重要性が大きく、問題が錯綜して來ると、反響が反響を呼ぶのみならず、更にそれに對する反響、又それの反響と、海外と國內との「ニュース」の往復は幾度びか繰返されるのである。

かく、國內報道界の中樞として重要な職能を果してゐる一方、國際的の「ニュース」交流の中心に在つて此の重大な責任を負ふところに同盟通信社の特徴があり、その活動の複雑さと廣さが示されてゐるのである。

## 國際的「ニュース」聯絡

附圖として挿入した『外國「ニュース」蒐集網』の圖は昭和十一年十月末現在に於ける海外からの直電系統を示したものであるが、平時に於ける歐洲各地からの「ニュース」の多くは、一旦、ロンドン、パリ、ベルリン、モスクワなどの重要中心地點に取纏められた上で打電されて居り、而もその大部分は外國放送電報に組込まれて送られてゐる。之等の外電は第一に各々の國の「ニュース」を報道することに重點を置いてゐるが、ロンドンは英帝國の大部分、パリ、ベルリンは歐洲大陸の諸國といふやうに、おのづから夫々の地理

的政治的事情に基いてその國以外の「ニュース」をも「カヴァー」してゐる。

本年第三四季に同盟通信社に入電した外國電報の月平均をとり、關係地域別にその内容を分類すると大體左の如くである。但し此の分類では、平常時に於ける状態を示す爲め、七・八兩月に於いて夥しい量にのぼつたオリムピック關係電報は除外してある。

	一ヶ月平均語數	百分比
東亞「ニュース」		
滿洲國	七、〇〇〇	
支那各地	一八、〇〇〇	
その他（暹羅、比島等々）	一、〇〇〇	
計	二六、〇〇〇	一一三・六
米洲「ニュース」	三六、〇〇〇	三二・七
歐洲「ニュース」		

英本國、英帝國の大部分	一〇、〇〇〇	
フランス並にフランスを中心とした歐洲大陸	二〇、〇〇〇	
ドイツ並にドイツを中心とした歐洲大陸	八、〇〇〇	
ソヴェト聯邦	一〇、〇〇〇	
計	四八、〇〇〇	四三・六
總計	一一〇、〇〇〇	一〇〇・〇

(附圖『外電内容地域別表』参照)

對外「ニュース」發信經路は「ニュース」蒐集經路を幾分修正し、簡單化したものであるが、今日同盟通信社の對外的報道の中心をなすものは無電による放送で、現在正式又は非公式に同盟の英文「ニュース」放送電報を受信してゐる國々は、フランス、ソヴェト聯邦、ドイツ、英國、イタリア、瑞西、ポーランド、暹羅、蘭領東印度、トルコ、ラトヴィ

ア、エストニア、リトアニア、メキシコ、ペルー、南阿聯邦、イラン等の諸國である。

十月末現在の一日當放送回数及び語數を示せば左の如くである。

	回 數	語 數
對 歐 洲 放 送	二	四〇〇 (英 文)
對 東 亞・南 洋・南 北 米 放 送	二	四〇〇 (英 文)
對 支 放 送	一	二、七〇〇 (和 文)
計	一五	三、五〇〇

(附圖『放送電報』参照)

## 同盟通信社の經濟通信

同盟通信社が營む附帶事業の最重要なものに經濟通信がある。經濟通信も同盟の「ニュース」の一部門として各新聞社や放送局に配布されることは謂ふまでもないが、同時にこれは銀行、會社、商店などの個人購讀者にも速報される。

同盟通信社の海外相場及び經濟情報の外電は既に二十年の歴史を有し、財界各方面の要求の増大に伴ひ、漸次擴充されて來たもので、我國各市場に於ける指針となつてゐるが、我が經濟界にとつて一刻も忽せに出來ない此の重要な相場、情報、「ニュース」を、正確



に、且迅速に配布することは同盟通信社のやうな國際的、國內的聯絡網を持つ機關のみが能くするところで、殊に利害關係の錯綜した經濟界の事柄であるから、同盟のやうな不偏獨立の機關を俟つて初めて公正を期し得るのである。

現在此の經濟通信の購讀者の數は約二千に達してゐるが、その項目は左の如くである。

内國經濟通信種類

滿洲特産通信  
 同後場特報  
 株式短期通信  
 株式長期通信  
 人生絲綢  
 砂糖  
 ” ” ” ”

護油地小期綿雜

謨脂金麥米絲穀  
 ” ” ” ” ” ”  
 通信

砂護金株爲生棉

海外經濟電報種類

糖謨物式替絲花  
電報  
" " " " " "

埃上特船油小

海別  
及爲  
棉替情  
特特  
報報報  
" " 麥  
電報

同 盟 社 團 法 人  
支 社 本

東京本社  
大阪支社

名古屋支社  
關門支社  
函館支局  
青森支局  
仙臺支局  
桐生支局  
足利支局  
前橋支局  
新潟支局  
富山支局  
長野支局  
甲府支局  
岡谷支局  
松本支局  
橫濱支局  
濱松支局  
豐橋支局  
福井支局  
金澤支局

京橋區銀座西七丁目  
西區江戶通一丁目  
中區南大津町二丁目  
門司市港町海岸通  
仲濱町一丁目  
大町四丁目  
東三番丁一丁目  
永樂町三丁目  
雪輪町二丁目  
相居町三丁目  
寄居町三丁目  
總曲輪二丁目  
南縣一〇六  
二十一人町七  
岡谷市  
仲區南仲通り三ノ二六  
中區南仲通り三ノ二六  
元城町二丁目  
花田町石塚  
佐久良上町九  
高岡町一二八

電話番號

(銀座二二二一)  
(土佐堀五五三)  
(中局七六〇)  
(門司六五二)  
(函館二〇二八)  
(青森三四一〇)  
(仙臺一七四四)  
(桐生二〇五一)  
(足利八八二)  
(前橋一八四四)  
(新潟三〇六六)  
(富山二一四九)  
(長野三一三一)  
(甲府三一〇七)  
(岡谷三〇五九)  
(松本一九八一)  
(本局二四二九)  
(濱松二四六六)  
(豊橋五四六〇)  
(福井二七七〇)  
(金澤一〇五四)

# 社 信 通

局 支・社

京釜臺鹿熊長佐福大下松廣高德高岡姬神京  
 城山北兒本崎賀岡分關山島知島松山路戶都  
 支支支支支支支支支支支支支支支支支支  
 局局局局局局局局局局局局局局局局局局

明大 大 泉 行 千 松 天 荷 東 西 上 本 寺 外 東 東 神 上  
 治 倉 和 馬 原 神 揚 南 流 町 島 磨 中 紺 戶 京  
 町 町 町 幸 町 町 部 川 四 丁 屋 山 屋 海 區 樁  
 一 四 二 九 町 二 三 四 一 町 一 二 三 七 九 二 二 八 五  
 丁 丁 丁 丁 丁 三 四 二 三 丁 丁 目 目 目 目 目 目 目  
 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目 目

(本局四八八〇)  
 (釜山四〇六〇)  
 (臺北三九九六)  
 (鹿兒島一二二〇)  
 (熊本一六一二)  
 (長崎二一一二)  
 (佐賀九一一〇)  
 (福岡一六二五)  
 (大分六五〇七)  
 (下關三六〇七)  
 (松山一六三九)  
 (廣島五六四八)  
 (高知七五五三)  
 (德島二五〇〇)  
 (高松三九〇九)  
 (岡山五一〇九)  
 (姫路二〇三二)  
 (三宮一〇二二)  
 (上局五八四五)

## ◇ 同盟通信社刊行物 ◇

### 海外經濟解説

その日その日の重要な世界の經濟問題や時事問題を極めて簡単に、平易に説明したもの。日刊、一ヶ月購讀料金五圓。一ヶ年金五拾圓。

### 國際經濟通報

同盟通信社に入電した外電、國內經濟「ニュース」を整理編輯し、之に時事關係記事を盛つた週刊經濟雜誌。毎週木曜日發行、一部金貳拾五錢。一ヶ年金拾圓。

### 經濟パンフレット

毎年四、五回發行する世界經濟問題の解説。四六版七、八十頁内外。定價金五拾錢。最新刊『大英帝國の經濟』

### 同盟パンフレット

月一回乃至二回發行する時事問題解説書。四六版七、八十頁内外。定價金貳拾錢。最新刊『増税整税は國民にどう響くか』  
『世相から見た新時代のソ聯邦』

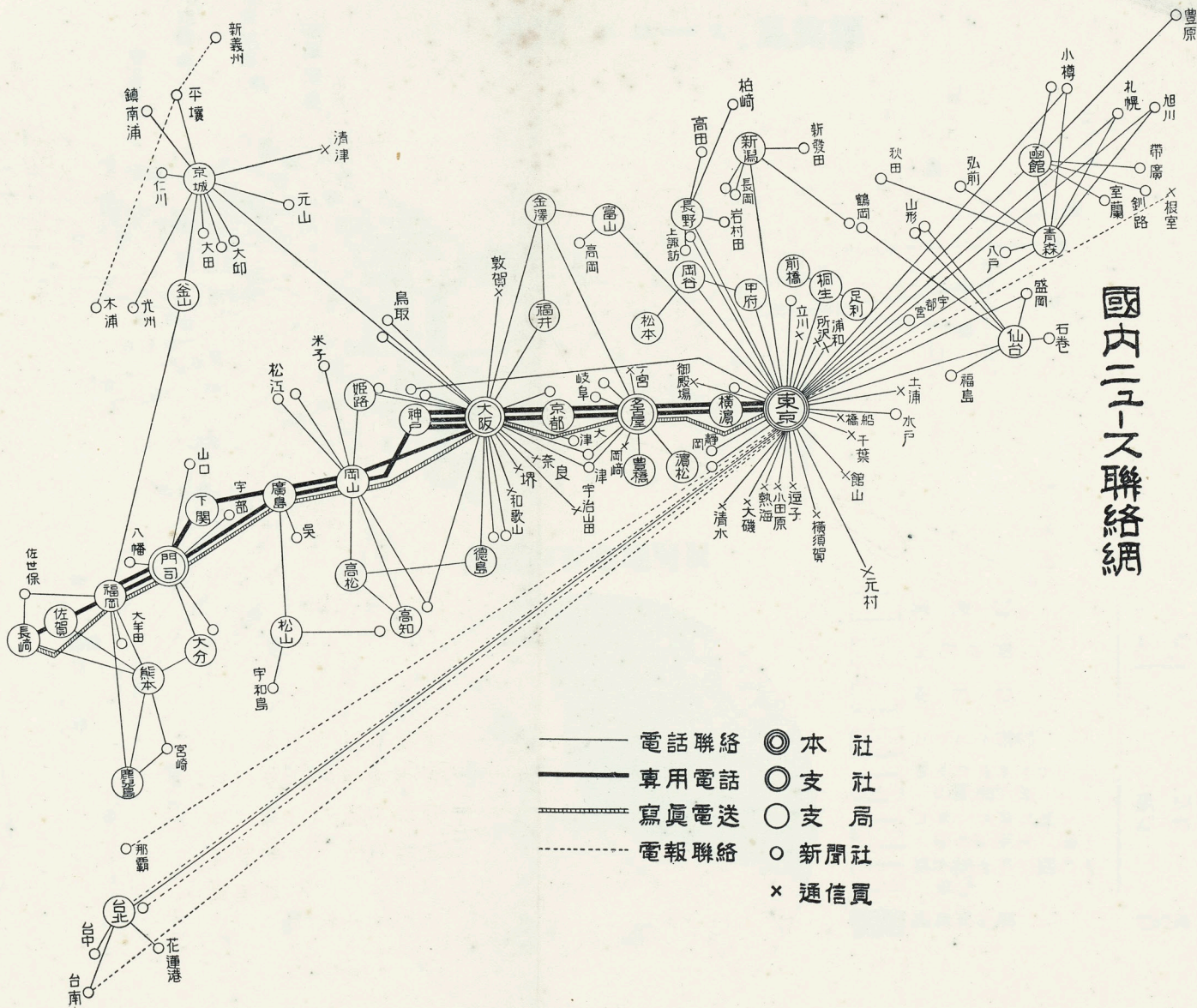
### ジャパン・トレ イド・ガイド

日本商品を全世界に紹介する目的で發行する年鑑。我生産品數百を網羅して解説す。菊倍版七百頁。定價金貳拾五圓。

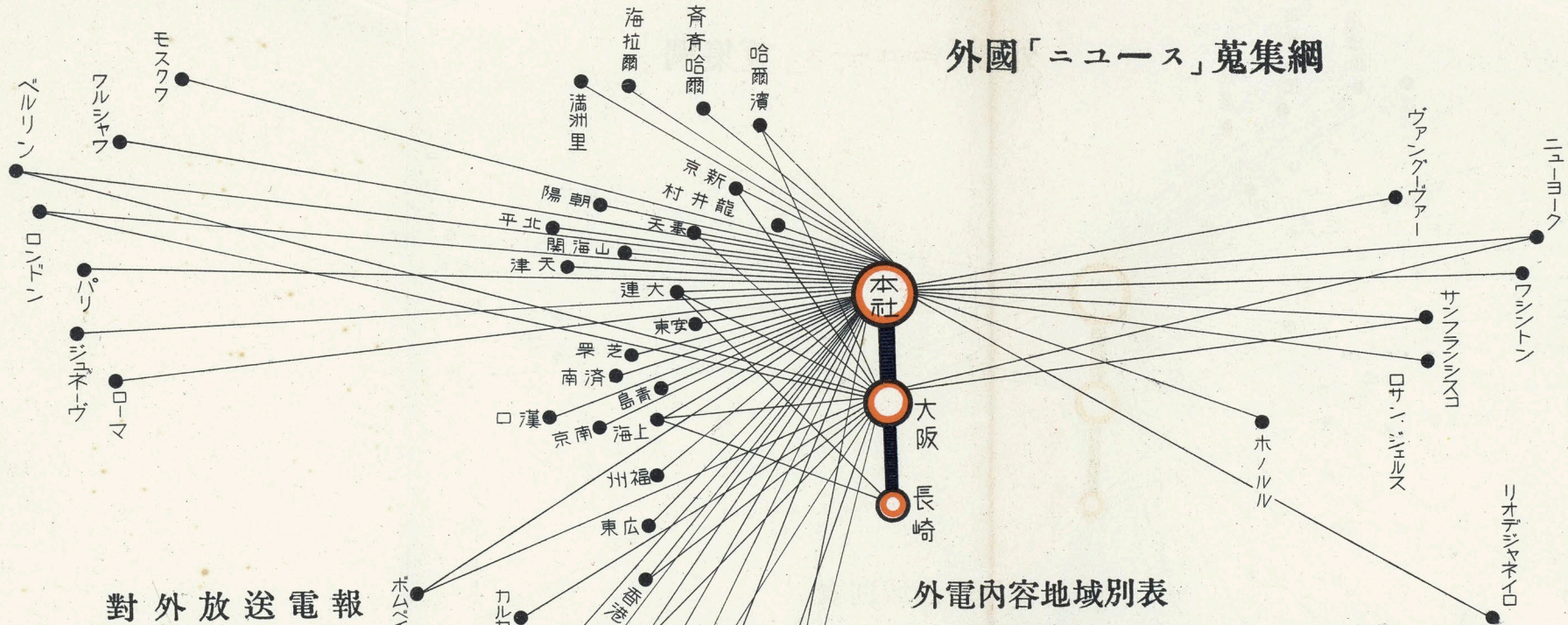
### 國際寫眞新聞

同盟通信社の世界「ニュース」網から集る内外寫眞を中心とした寫眞畫報。毎月二回發行。菊倍版五十二頁。一部金五拾錢、一ヶ年金九圓。

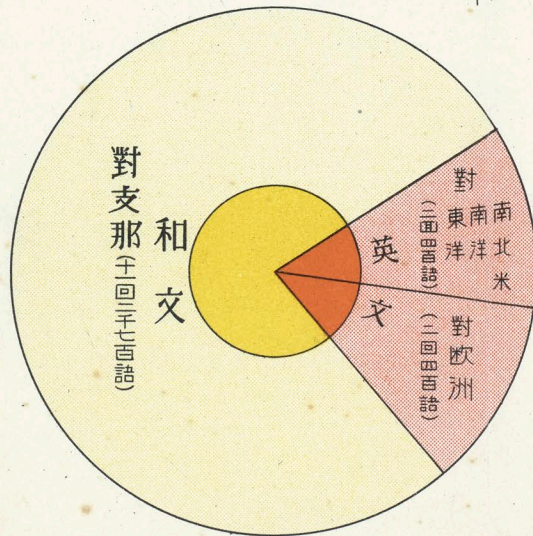
# 國內二三一之聯絡網



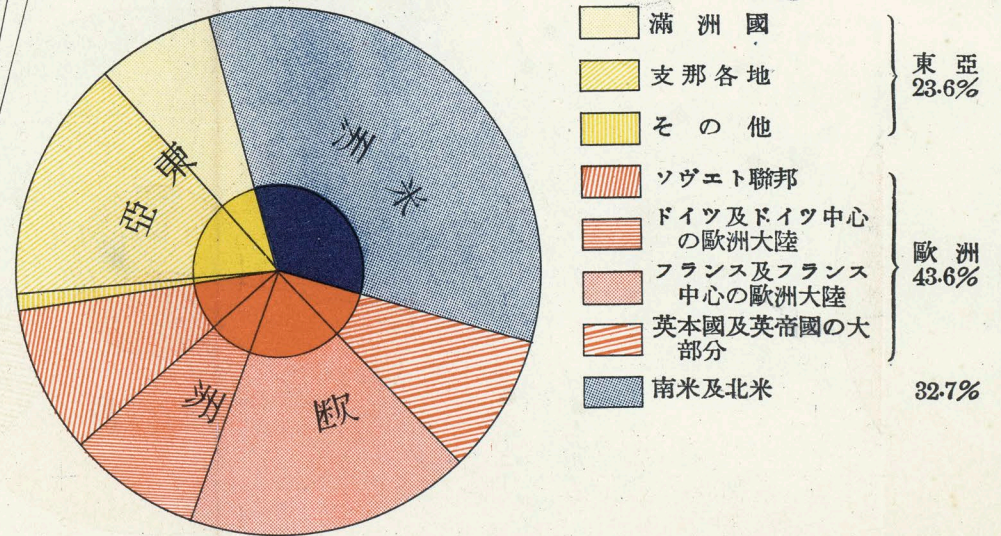
# 外國「ニュース」蒐集網



## 對外放送電報



## 外電內容地域別表



昭和十一年十一月九日發行

(非賣品)

社團  
法人  
同盟通信社

京橋區銀座西七丁目

印刷所  
川崎活版印刷所

京橋區築地二丁目五番地



